

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年2月13日
【四半期会計期間】	第68期第3四半期（自平成26年10月1日至平成26年12月31日）
【会社名】	日本電子株式会社
【英訳名】	JEOL Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 栗原 権右衛門
【本店の所在の場所】	東京都昭島市武蔵野三丁目1番2号
【電話番号】	(042) 542 - 2124
【事務連絡者氏名】	経理部長 山崎 修
【最寄りの連絡場所】	東京都昭島市武蔵野三丁目1番2号
【電話番号】	(042) 542 - 2124
【事務連絡者氏名】	経理部長 山崎 修
【縦覧に供する場所】	日本電子株式会社東京事務所 (東京都千代田区大手町二丁目1番1号 大手町野村ビル13階) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第67期 第3四半期 連結累計期間	第68期 第3四半期 連結累計期間	第67期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (百万円)	59,646	59,426	99,331
経常損失()又は経常利益 (百万円)	2,756	512	3,340
四半期純損失()又は当期純利益 (百万円)	1,642	1,675	3,984
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	942	131	6,441
純資産額 (百万円)	19,198	26,167	28,791
総資産額 (百万円)	106,705	112,843	111,452
1株当たり四半期純損失金額 ()又は1株当たり当期純利益 金額 (円)	22.74	19.37	47.98
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	47.13
自己資本比率 (%)	18.0	23.2	25.8

回次	第67期 第3四半期 連結会計期間	第68期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	6.41	5.91

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 第67期第3四半期連結累計期間および第68期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間における経済状況は、地政学的リスクの影響、新興国経済の減速等の不安要素はあるものの、米国景気の回復や、国内における金融緩和と政策等による円高の是正や株価の上昇等により、概ね景気は緩やかに回復しつつあります。

このような状況下、当社グループは、中期経営計画「Dynamic Vision」（平成25年度～平成27年度）に掲げる重点戦略を強力に推進し、企業価値の向上および経営基盤の強化を図るとともに受注・売上の確保に努めました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は59,426百万円（前年同期比0.4%減）となりました。損益面においては、営業損失は1,500百万円（前年同期は営業損失572百万円）、経常損失は512百万円（前年同期は経常損失2,756百万円）、四半期純損失は1,675百万円（前年同期は四半期純損失1,642百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

理科学・計測機器事業

電子顕微鏡への引合いは引き続き好調であり、材料・医学・生物分野における開発研究から品質管理等の幅広い分野からの要求に応えました。特に透過電子顕微鏡の需要は旺盛で市場での高い評価が受注に寄与しました。

この結果、当事業の売上高は41,474百万円（前年同期比 0.8%減）となりました。

産業機器事業

電子ビーム描画装置および電子ビーム蒸着用電子銃・電源の売上は堅調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は5,342百万円（前年同期比 1.2%減）となりました。

医用機器事業

国内および海外（主にOEM供給先であるシーメンス向け）の売上は堅調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は12,609百万円（前年同期比 1.5%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末から1,391百万円増加し112,843百万円となりました。主なものとしては、現金及び預金が4,991百万円増加し、受取手形及び売掛金が13,925百万円減少し、たな卸資産が8,799百万円増加および投資有価証券が2,171百万円増加しております。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末から4,015百万円増加し86,676百万円となりました。これは主に、前受金等のその他流動負債の増加2,688百万円および長期借入金の増加1,579百万円によるものであります。

一方、当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、資本剰余金および利益剰余金の減少に伴い26,167百万円となりました。以上の結果、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は前連結会計年度末から2.6%減少し23.2%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

また、当社は、当社の企業価値・株主共同の利益を確保し、又は向上させることを目的として、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりです。

当社の財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は、公開会社として当社株式の自由な売買を認める以上、大規模な買付行為に応じて当社株式の売却を行うか否かは、最終的には当社株式を保有する株主の皆様が判断に委ねられるべきものであると考えます。

しかしながら、大規模な買付行為またはこれに関する提案につきましては、当社株主の皆様が、当該買付者の事業内容、事業計画、過去の投資行動等から、当該買付行為または提案の企業価値および株主共同の利益への影響を慎重に判断する機会がなければ、株主の皆様が将来実現することのできる株主価値を毀損する結果となる可能性があります。

当社は、突然大規模な買付行為がなされたときに、買付者の提示する当社株式の取得対価の妥当性について株主の皆様が短期間の内に適切に判断するためには、買付者および当社取締役会の双方から適切かつ十分な情報が提供されることが不可欠であると考えます。

このような基本的な考え方に立ち、当社としましては、株主の皆様が適切に判断できるよう、当社が事前に設定する一定のルール（以下「大規模買付ルール」または「本ルール」といいます。）に従って、大規模買付行為を行う買付者が買付行為に関する必要かつ十分な情報を当社取締役会に事前に提供し、当社取締役会における一定の評価期間が確保されていることが必要であると考えております。

また、当該大規模買付行為が明らかに濫用目的によるものと認められ当社株主全体の利益を著しく損なうと判断されるときは、当社取締役会が大規模買付ルールに従って適切と考える措置をとることも必要であると考えております。

当社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の会社の支配に関する基本方針の実現に資する特別な取組み

当社は、「創造と開発」を基本とし、常に世界最高の技術に挑戦し、製品を通じて科学の進歩と社会の発展に貢献することを経営理念としております。創立以来の歴史の中で蓄積してきた要素技術・ノウハウ・グローバルネットワークを活かし、世界 1 の装置を提供する「分析・計測の世界において欠かせない企業」、さらには独自のソリューションと付加価値を提供するOnly One Companyとなることを目指しております。

中期経営計画「Dynamic Vision」（平成25年度～平成27年度）では、「CHALLENGE 5」の「経営構造改革」の成果を基に、世界 1 のハイエンド理科学・計測機器と最適ソリューションをグローバルに提供し続けることにより、更なる収益率の向上および財務体質の強化を図ってまいります。重点戦略として3つのUP、「製品開発力UP」、「ものづくり力UP」、「ブランド力UP」を据え、また、新たなコーポレートメッセージとして「Solutions for Innovation」を掲げ、多様化したニーズに応えることのできる真のOnly One Companyとして、成長戦略をDynamicに推し進めていきます。

また、当社では、経営環境の変化に迅速に対応するため、経営のスリム化を図るべく、平成18年6月の定時株主総会において、取締役の人数（定款上の定員の上限）を絞るとともに、経営の意思決定の迅速化、業務執行の効率化を図るため、「執行役員制度」を導入しています。さらに、法令遵守の徹底を図るため、業務監理室を設置するとともに、企業の社会的責任を重視して、社長を委員長とし、社外弁護士も参加するCSR委員会を設置し、コーポレートガバナンス体制の強化に取組んでおります。

会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、平成25年6月27日開催の第66回定時株主総会において、当社株券等の大規模買付行為への対応方針（買収防衛策）（以下「本対応方針」といいます。）の継続をご承認いただきました。

本対応方針は、大規模買付行為に際して、株主の皆様が大規模買付者の提案に対して適切に判断できるよう、当社が事前に設定する大規模買付ルールに従って、大規模買付者が大規模買付行為に関する必要かつ十分な情報を当社取締役会に事前に提供し、かつ、当社取締役会における一定の評価期間の経過後に当該買付行為を開始するというものです。

大規模買付者が本ルールを遵守した場合には、取締役会は、当該買付提案についての評価意見を表明したり、代替案を提示することにより、株主の皆様が判断に必要な情報を提供することとし、大規模買付者の買付提案に応じるか否かは、株主の皆様において、当該買付提案および取締役会が提示する当該買付提案に対する意見、代替案等を考慮の上、判断していただくこととなります。原則として、当該大規模買付行為に対する対抗措置はとりません。

しかしながら、例外的に、当該買付行為が明らかに濫用目的によるものと認められ、その結果として当社に回復し難い損害をもたらすなど、当社株主共同の利益を著しく損なうと判断される場合には、取締役会は、外部専

門家等の助言を得ながら、独立委員会からの勧告を最大限尊重したうえで、株主の皆様の利益を守るために、適切と考える方策を取ることがあります。

一方、大規模買付者により、本ルールが遵守されなかった場合には、取締役会は、当社および株主共同の利益を守ることを目的として、新株予約権の発行等、会社法その他の法律および当社定款が認める対抗措置をとり、大規模買付行為に対抗する場合があります。対抗措置の発動については、外部専門家等の意見も参考にし、また独立委員会の勧告を最大限尊重し、取締役会が決定します。

具体的な対抗措置については、取締役会がその時点で最適と判断したものを選択することとします。株主への割当てまたは無償割当てにより新株予約権を発行する場合には、対抗措置としての効果を勘案した行使期間および行使条件を設けることがあります。

本対応方針が会社の支配に関する基本方針に沿うものであり、株主共同の利益を損なうものではなく、会社役員
の地位の維持を目的とするものではないことおよびその理由

本対応方針は、大規模買付を行う場合の一定のルールを明確にするものであり、本対応方針導入の必要性、独立委員会の設置、大規模買付ルールの内容、大規模買付行為が為された場合の対応方針、株主・投資家の皆様に与える影響等を規定しています。

本対応方針は、大規模買付者が大規模買付行為を行う際には必要かつ十分な情報を当社取締役会に事前に提供し、取締役会による一定の評価期間が経過した後にのみ買付行為を開始できることとしています。さらに、大規模買付者がこれを遵守しない場合、または、大規模買付行為が当社株主共同の利益を著しく損なうものである場合には、大規模買付者に対して取締役会は株主共同の利益を守るために適切な対抗措置を講じることがあることを明記しています。

また、本対応方針そのものの導入・継続については、株主の皆様の承認をえることとしております。本対応方針の有効期限は3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までとし、以後も同様とします。

なお、本対応方針は取締役会が対抗措置を発動する場合について事前かつ明確に開示しており、取締役会による対抗措置の発動は本対応方針の規定に則って実施されます。

また、取締役会が大規模買付行為について評価・検討を行う際や代替案を提示し、または対抗措置を発動する際には、外部専門家等の意見も参考にし、当社経営陣から独立した委員で構成される独立委員会に諮問し、同委員会の勧告を最大限尊重するものとしています。

このような観点から、本対応方針が基本方針に沿うものであり、株主共同の利益を損なうものではなく、当社役員

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は4,187百万円であります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成27年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	97,715,600	97,715,600	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株であ ります。
計	97,715,600	97,715,600	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日	-	97,715,600	-	10,037	-	8,974

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,080,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 96,494,000	96,494	-
単元未満株式	普通株式 141,600	-	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	97,715,600	-	-
総株主の議決権	-	96,494	-

(注) 「単元未満株式」欄には、当社保有の自己株式 320株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 日本電子株式会社	東京都昭島市武蔵野 三丁目1番2号	1,080,000	-	1,080,000	1.11
計	-	1,080,000	-	1,080,000	1.11

2 【役員】の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）および第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,027	13,019
受取手形及び売掛金	34,222	20,297
商品及び製品	11,830	14,735
仕掛品	21,264	27,312
原材料及び貯蔵品	2,003	1,849
その他	4,517	5,289
貸倒引当金	183	175
流動資産合計	81,682	82,328
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,593	5,528
機械装置及び運搬具(純額)	619	733
工具、器具及び備品(純額)	2,643	2,299
土地	1,846	1,926
リース資産(純額)	1,475	1,130
建設仮勘定	789	1,083
有形固定資産合計	12,968	12,702
無形固定資産		
のれん	3,606	3,329
その他	1,210	985
無形固定資産合計	4,817	4,314
投資その他の資産		
投資有価証券	7,899	10,071
その他	4,052	3,411
貸倒引当金	42	44
投資その他の資産合計	11,909	13,438
固定資産合計	29,694	30,455
繰延資産	74	59
資産合計	111,452	112,843

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,578	³ 18,295
短期借入金	19,998	⁴ 20,034
1年内償還予定の社債	760	585
未払法人税等	782	340
賞与引当金	1,005	559
その他	15,893	³ 18,581
流動負債合計	56,018	58,395
固定負債		
社債	960	1,105
長期借入金	12,748	14,327
役員退職慰労引当金	196	192
退職給付に係る負債	10,554	10,821
資産除去債務	149	192
その他	2,033	1,640
固定負債合計	26,642	28,280
負債合計	82,660	86,676
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,037	10,037
資本剰余金	11,582	9,386
利益剰余金	9,017	6,784
自己株式	533	534
株主資本合計	30,103	25,673
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,021	2,898
為替換算調整勘定	832	88
退職給付に係る調整累計額	2,500	2,315
その他の包括利益累計額合計	1,312	494
純資産合計	28,791	26,167
負債純資産合計	111,452	112,843

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	59,646	59,426
売上原価	40,183	37,658
売上総利益	19,462	21,768
販売費及び一般管理費		
研究開発費	3,363	4,187
その他	16,671	19,081
販売費及び一般管理費合計	20,034	23,268
営業損失()	572	1,500
営業外収益		
受取利息	32	37
受取配当金	66	81
受取保険金	80	48
受託研究収入	8	141
持分法による投資利益	-	124
貸倒引当金戻入額	12	17
為替差益	-	976
その他	151	159
営業外収益合計	352	1,587
営業外費用		
支払利息	420	359
売上債権売却損	146	116
持分法による投資損失	20	-
為替差損	1,755	-
その他	192	123
営業外費用合計	2,536	599
経常損失()	2,756	512
特別利益		
固定資産売却益	5	5
段階取得に係る差益	1,863	-
その他	2	1
特別利益合計	1,871	6
特別損失		
固定資産売却損	7	0
固定資産除却損	16	55
投資有価証券評価損	6	-
特別損失合計	30	55
税金等調整前四半期純損失()	915	561
法人税、住民税及び事業税	654	649
法人税等調整額	72	465
法人税等合計	727	1,114
少数株主損益調整前四半期純損失()	1,642	1,675
四半期純損失()	1,642	1,675

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	1,642	1,675
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,039	876
繰延ヘッジ損益	472	-
為替換算調整勘定	812	596
退職給付に係る調整額	-	185
持分法適用会社に対する持分相当額	260	148
その他の包括利益合計	2,585	1,806
四半期包括利益	942	131
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	942	131
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）

持分法適用の範囲の重要な変更

当第3四半期連結会計期間より、JEOL GULF FZEは新たに設立したため、持分法適用の範囲に含めております。

（会計方針の変更）

（退職給付に関する会計基準等の適用）

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）および「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文および退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務および勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を残存勤務期間に基づく割引率を使用する方法から退職給付の給付見込期間および給付見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務および勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債および利益剰余金に与える影響は、軽微であります。また、当第3四半期連結累計期間の営業損失、経常損失および税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

連結会社以外の会社に対して、次のとおり債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成26年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)	
JEOL(MALAYSIA)SDN BHDの前受金 (277千RM)	8百万円	JEOL(MALAYSIA)SDN BHDの前受金 (305千RM)	10百万円
JEOL INDIA PVT.LTD.の前受金 (11,661千INR)	20 "	JEOL INDIA PVT.LTD.の前受金 (38,741千INR)	73 "
		JEOL(BEIJING)CO.,LTD.の借入金 (3,384千RMB)	65 "
計	28百万円	計	150百万円

2 手形割引高

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
輸出手形割引高	5,611百万円	4,234百万円

3 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
受取手形		20百万円
支払手形		2,166 "
流動負債「その他」(設備支払手形)		18 "

4 財務制限条項

借入金のうち、次の金額には純資産の部に係る財務制限条項が付されております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
		4,000百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)およびのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
減価償却費	1,808百万円	1,951百万円
のれんの償却額	-	277 "

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	156	利益剰余金	2.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日
	第1種優先 株式	110	利益剰余金	36,712.30	平成25年3月31日	平成25年6月28日
平成25年11月12日 取締役会	普通株式	195	利益剰余金	2.50	平成25年9月30日	平成25年12月6日
	第1種優先 株式	50	利益剰余金	25,000.00	平成25年9月30日	平成25年12月6日

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成25年6月12日開催の取締役会において、第1種優先株式の一部を取得すること、および取得した第
1種優先株式の全部につき消却を行うことを決議いたしました。

上記決議に基づき、当社は平成25年6月27日付で第1種優先株式の一部を取得し、これを全部消却しておりま
す。

この結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が1,061百万円減少し、当第3四半期連結会計期間末
において資本剰余金が8,284百万円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	241	利益剰余金	2.50	平成26年3月31日	平成26年6月30日
	第1種優先 株式	50	利益剰余金	25,000.00	平成26年3月31日	平成26年6月30日
平成26年11月11日 取締役会	普通株式	241	利益剰余金	2.50	平成26年9月30日	平成26年12月5日

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成26年5月13日開催の取締役会において、第1種優先株式の全部を取得すること、および取得した第
1種優先株式の全部につき消却を行うことを決議いたしました。

上記決議に基づき、当社は平成26年5月30日付で第1種優先株式の全部を取得し、これを全部消却しておりま
す。

この結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が2,196百万円減少し、当第3四半期連結会計期間末
において資本剰余金が9,386百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	理科学・計測 機器事業	産業機器事業	医用機器事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	41,814	5,407	12,424	59,646	-	59,646
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	41,814	5,407	12,424	59,646	-	59,646
セグメント利益又は損失 ()	1,037	27	877	1,942	2,514	572

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額 2,514百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 2,514百万円が含まれております。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「理科学・計測機器事業」セグメントにおいて、当社の持分法適用関連会社である株式会社 JEOL RESONANCE の株式を追加取得した際、のれんを計上しております。なお、当該のれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間内において3,698百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	理科学・計測 機器事業	産業機器事業	医用機器事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	41,474	5,342	12,609	59,426	-	59,426
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	41,474	5,342	12,609	59,426	-	59,426
セグメント利益又は損失 ()	648	269	1,669	1,289	2,790	1,500

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額 2,790百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 2,790百万円が含まれております。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額	22円74銭	19円37銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(百万円)	1,642	1,675
普通株主に帰属しない金額(百万円)	137	196
(うち優先配当額(百万円))	(75)	()
(うち優先株式に係る償還差額(百万円))	(注)2 (61)	(注)3 (196)
普通株式に係る四半期純損失金額(百万円)	1,780	1,871
普通株式の期中平均株式数(千株)	78,288	96,635
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注)1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

2 当社定款の定めに基づき平成25年6月27日に一部償還した第1種優先株式の償還金額と当該株式の発行価額との差額であります。

3 当社定款の定めに基づき平成26年5月30日に全部償還した第1種優先株式の償還金額と当該株式の発行価額との差額であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第68期（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）中間配当については、平成26年11月11日開催の取締役会において、平成26年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	普通株式	241百万円
1株当たりの金額	普通株式	2円50銭
支払請求の効力発生日及び支払開始日	普通株式	平成26年12月5日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年2月10日

日本電子株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岡 田 吉 泰 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 木 村 彰 夫 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本電子株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本電子株式会社及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。